



# 中央小だより



↑カラー写真はHPで

みんなの 中央小  
みんなで 中央小

令和5年1月31日  
第65号 文責:校長

## いざというときに 命を守る行動を

1/17は地震、翌日の1/18は火災を想定し、2日続けて避難訓練をしました。

17日は、

- ◆28年前の阪神淡路大震災のこと
  - ◆半旗の意味
  - ◆亡くなられた6434名、そのお一人お一人に人生があり、当たり前のように訪れると思っていた「明日」が失われてしまったこと
  - ◆地震はいつか必ず起きること
  - ◆そのとき自分や周りの人の命を守るためにどうすればいいかを学び、身につけ、伝えていくことが大切であること
  - ◆それが「お亡くなりになった方の分まで生きる」ことにつながるということ
- を話しました。

その日、下校前に「校長先生、地震のことをいろいろ詳しく教えてくれてありがとう」と言ってくれた2年生男子がいます。

うれしかったなあ！

訓練は、いざというとき 迷わず 正しい行動が とれるように するためのもの。何度やっても やり過ぎではありません。

## 大学の 先生に 教えてもらいました

1/19、兵庫県立大学の園部先生が、6年生を対象に位相差(いそうさ)顕微鏡を使ったアメーバの観察の授業をしてくださいました。

写真などで見たことはあったものの、私もアメーバの実物を見るのは生まれて初めて。単細胞生物であるアメーバが、餌となる「テトラヒメナ」を捕食する様子が観察できました。単に観察だけでなく、当たり前のような身の回りの出来事に対し、「なぜ？」と探求する科学的思考のおもしろさも教えていただきました。

6年生女子の感想「めっちゃおもしろかった。こんなん、毎月してほしいわ」……確かに。

## 書き初め会と 「正月の風習」の いわれ



1/10は書き初め会。今年も恵方を向いて書き初めをしていたクラスがありました。どのクラスもシーンとした、張り詰めた空気感の中で真剣そのものでした。

そんな正月の行事も とっくに終わっちゃいましたが、そのいわれについて書きます。(実は私もここまでくわしく知らなかったです(汗))

祖先の霊が 田の神や山の神になり、正月は「年神」となって各家々にやってきて、その家の一年を守ってくれるという 言い習わしがあります。だから、正月にはその年神様をお迎えして、お祝いをするさまざまな風習や行事があるわけです。ぜひ伝え続けたいものですね。

- ◆「門松や 松飾り」は、年神様がお越しになるための目印
- ◆「しめ縄」は、「けがれの無い 清浄な場所」(年神様が安心してお越しいただける場所)を示す、いわゆる「結界」のようなもの
- ◆「鏡餅」は、前年の収穫(米)を感謝とともに年神様に お供えするもの
- ◆「祝箸」は、年神様と一緒に おせち料理をいただくという意味で、両側が細くなっています
- ◆「とんど焼き」は、お越しになっていた年神様が、その煙に乗って天へ帰っていくとされています。その時の炎で焼いた餅を食べると無病息災となり、書き初めを燃やすと 字が上手になると言われています

そして年神様が その年にいらっしゃる方角(年によって変わります)が その年の「恵方」で、その方角に向かって事を行えば、万事に吉とする 言い伝えもあります。

今年の恵方は「南南東のやや南」です。